

沖縄のフロラを二分する境界線（八）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 正宗, 巖敬, Masamune, G. メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065683

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



v) コシオガマ *Pluheirospermum japonicum* (Thunb.) Kanitz 差木地で数本採集した。伊豆七島では三宅島に既産する。ところで興味ある事はこのコシオガマはいずれも大層小さいものである。その草丈の割合に花が大きいから一見しただけでは別の植物のような感じがした。然しこれは恐らく、この植物が半寄生のものと知られているけれども、適当な寄主が得られないからではないだろうか。

vi) コガマ *Typha orientalis* Presl 伊豆七島では三宅島に既産する。大島では野増のカツパの沢にわずか12・3本生育しているという。内藤氏採集。

vii) ヒルムシロ *Potamogeton distinctus* A. Benn. 伊豆七島では八丈島に産する以外他に知られていない。コガマと同じく野増のカツパの沢で内藤氏が採集された。

この稿を書くに当つて中原孫吉博士より大島の気象のデータを北村四郎博士よりヒロハテイショウソウに就いて御教示戴いた。厚く感謝の意を表する。

正宗巖敬 沖縄のフロラを二分する境界線 (八)

G. Masamune: The Line of Demarcation which Divides the Flora of Okinawa, in Two Regions. (VIII)

ホウズキムグラ (*Argostemma solaniflora* El.) を西表島に産することを、初島、金城両氏が報告されている。私はこのホウズキムグラが紅頭嶼にあることを発表しておいた。このホウズキムグラは有茎種で、イリオモテソウは無茎種で、葉の形もちがつているのでこれら二種を同一種とは考えられないので、ホウズキムグラが西表産として加わつたと考えられる。したがつてこの境界を北にわたらない種としてこのホウズキムグラをあげることができよう。

ハネミノモダマ (*Mucuna iriomotensis* Ohwi) 本種は八重山群島特産となつており、この境界を越えていないが、台湾には自生しているようだ。

ヒメアズキ (*Azukiia riukiensis* Ohwi) 台湾から石垣島まで分布する。

Melicope awadan Ohwi et Hat. アワダンの一種で、石垣島と西表に産する。

タイワンツゲモドキ (*Putranjiva formosana* Kan. et Sasaki) 台湾より八重山に分布するという。

カイガンセイシボク (*Antidesma pseudo-pentandrum* Hurusawa) 八重山にのみ自生する。

イリオモテユズリハ (*Daphniphyllum teijsmanni* Zollinger var. *iriomotensis* Hurusawa) 西表と石垣島に見られる。これら両島に固有のようだ。

クスノハアカメガシワ (*Mallotus philippensis* Lam) この境界線より北にも分布するという人もあるが、私が見たのは全部、この境界線より南方の物で、海南島、南支那、台湾、フィリピンなどのものであつた。恐らく本境界を北に越さないものであろう。

ナンバンヤナギ (*Homonoya riparia* Lour.) 本種も前種と同様に、南方よりこの境界の南側まで分布して、この境界を越えていない。前種および本種のように南方に広く分布する種でこの境界を越えないものが相当見られるが、こうした型のものが多い少ないは境界線の重要性に対して大きな意味のあるものと考えざるをえない。

オオバツゲ (*Gelonium aequorum* Hance) 本種も前2種と同じ範疇にはいるものである。

前号64頁のミヤジマツハマメはミヤコジマツルマメの誤植につき訂正。